

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和5年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第11号（2月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒 899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス : <http://www.jpjn.ne.jp/kagoshima>

(3月からはホームページが移転します)

メールアドレス : [nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp)



## 農薬の安全使用に努めましょう

### 農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理, 安全使用
2. 作物に対する安全 適期, 適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給  
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止  
(周辺住民等への危被害防止)  
(河川, 湖沼, 海などへの汚染防止)  
(養蚕, 養蜂などへの危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

## 農薬ラベルを確認しましょう

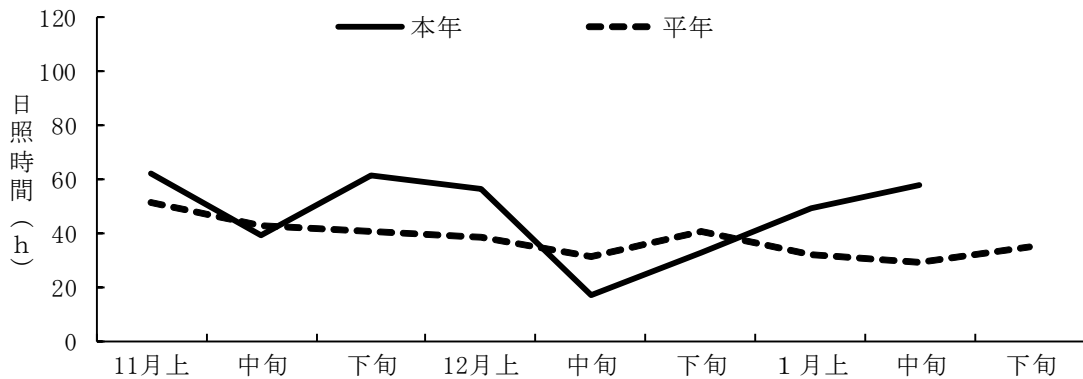
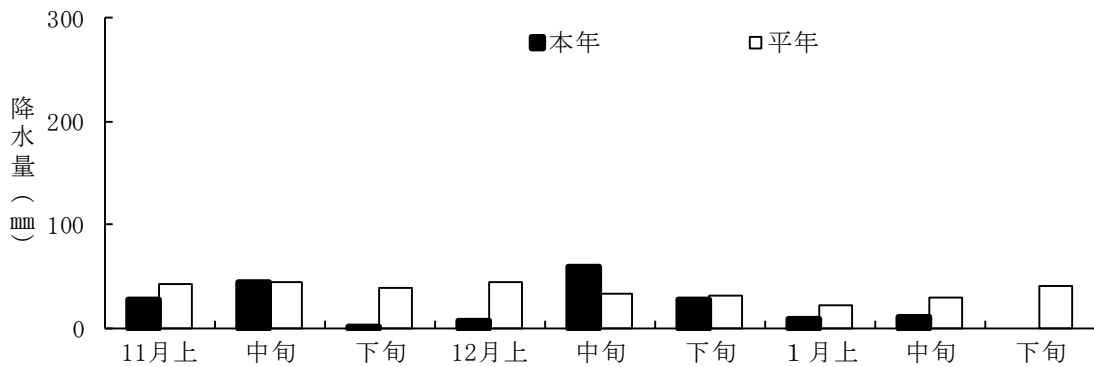
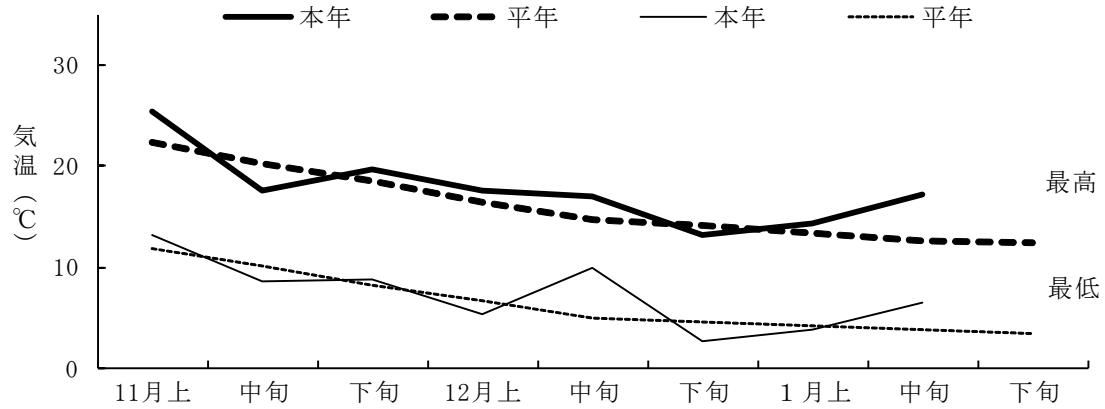
## 農薬の飛散(ドリフト)にも注意しましょう

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（1月27日から2月26日） 令和6年1月25日 鹿児島地方気象台 発表

要素	地域	確率（％）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	10	20	70	九州南部では気温が高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込。奄美地方では気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込
	奄美地方	10	10	80	
降水量	九州南部	20	40	40	
	奄美地方	30	30	40	
日照時間	九州南部	40	40	20	
	奄美地方	30	30	40	

II. 10～1月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



### 【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名	発生量	
			現況	予報
野             菜	キュウリ	べと病	並	やや多
		退緑黄化病	やや多	やや多
	トマト	うどんこ病	並	並
		黄化葉巻病	やや多	やや多
	ピーマン	斑点病	並	やや多
		うどんこ病	やや多	やや多
		菌核病	多	多
		アザミウマ類	やや多	やや多
	イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多
		アザミウマ類	やや多	やや多
		ハダニ類	少	やや少
	エンドウ類	うどんこ病	多	多
		アザミウマ類	やや多	やや多
	キャベツ	菌核病	やや少	並
パレイショ	疫 病（熊毛地域）	やや多	多	
	〃（奄美地域）	多	多	
	菌核病（熊毛地域）	多	多	
	〃（奄美地域）	やや少	並	
花 き	キ ク	ハダニ類（県本土，施設）	やや少	やや少
		アザミウマ類（県本土，施設）	やや少	やや少
		〃（奄美地域，露地）	やや少	やや少

## 【病害虫発生予報】

### I. 普通作物

#### 防除に関する今月の留意事項

##### 1. 水稻

###### (1) スクミリンゴガイ

早期水稻、普通期水稻で、以下の耕種的防除対策に取り組む。

ア 発生ほ場では2月までの極寒期に、トラクターでほ場を耕耘（走行速度を遅く、ロータリーの回転は速くする）して、土壌中の貝を寒風にさらすとともに破碎する。

イ 用水路内での越冬場所をなくし、水田への貝の侵入を減少させるため、水路での泥上げや除草に努める。

##### 2. サツマイモ

###### (1) サツマイモ基腐病

次作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

###### <育苗床>

ア 育苗床では、萌芽の確認や育苗管理及び採苗作業で繰り返し出入りするなど、再汚染のリスクが極めて高いため、育苗床専用の長靴や手袋などを使用する。

イ 萌芽した芽に変色やしおれ症状が見られた場合は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。また、萌芽せずに腐敗した種いもも掘り取り、同様に処分する。

###### <採苗>（超早掘用）

ア 基腐病等の感染を抑えるため、地際部から5cm（2～3節）以上の高さの位置で採苗する。

イ 採苗するハサミの刃先は、こまめにバーナー等であぶって殺菌・消毒する。

ウ 苗消毒は、採苗後速やかに行う。薬液は、日光や汚れなどで消毒効果が減少するため、使用日ごとに毎回調整する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 ([https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570\\_20221018104909-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221018104909-1.pdf), [https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570\\_20221226173000-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221226173000-1.pdf)), 農研機構 ([https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/stem\\_blight\\_and\\_storage\\_tuber\\_rot\\_of\\_sweetpotator04.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf)) をご覧ください。



鹿児島県  
サツマイモ基腐病防除  
対策マニュアル(第3版)  
令和4年10月改訂



鹿児島県  
さつまいも育苗の  
ポイント  
(令和4年12月)



農研機構  
サツマイモ基腐病の  
発生生態と防除対策  
(令和4年度版)

## Ⅱ. 野 菜

### 1. キュウリ

#### (1) ベと病

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

##### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率60%（平年55%）  
：やや高い（+）

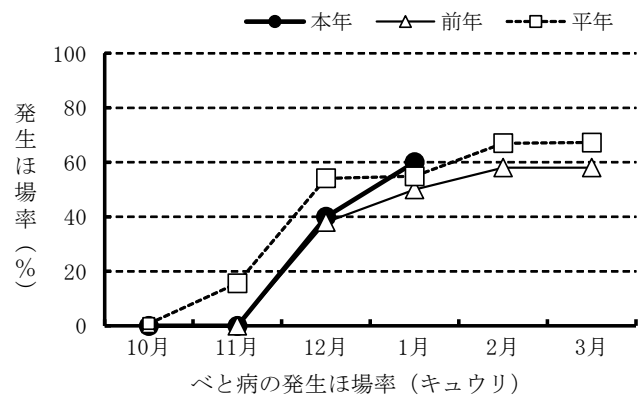
発生程度は低い（-）

##### (イ) 気象予報

降水量：平年並みか多い（+）

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウスの通風換気に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
- (ウ) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、早めに防除する。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



#### (2) 退緑黄化病

##### ア 予報内容

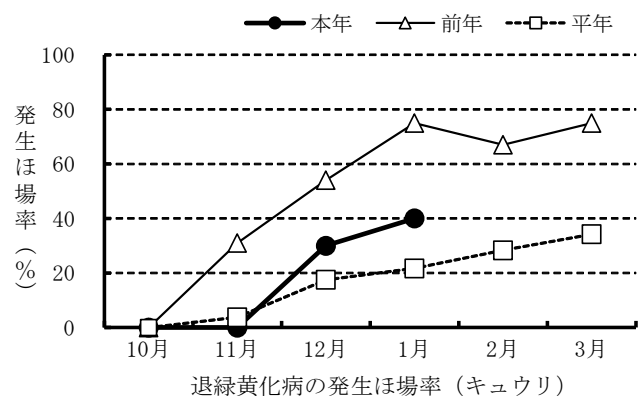
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

##### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率40%（平年22%）  
：やや高い（+）

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発病株を認めたら速やかに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (イ) 退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）はタバココナジラミが媒介するので、ハウス内に黄色粘着トラップを設置し早期発見と早期防除に努める。
- (ウ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



## 2. トマト

### (1) うどんこ病

#### ア 予報内容

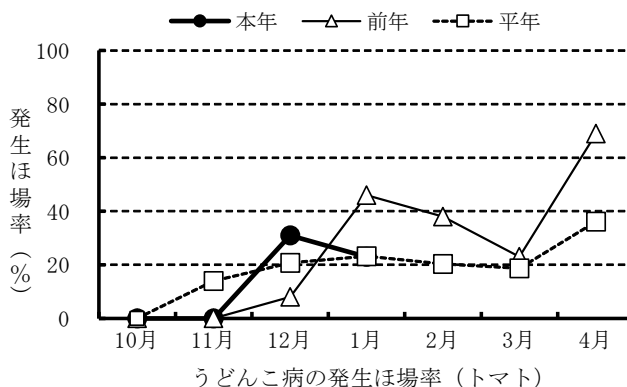
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率23%（平年23%）：並

#### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



### (2) 黄化葉巻病

#### ア 予報内容

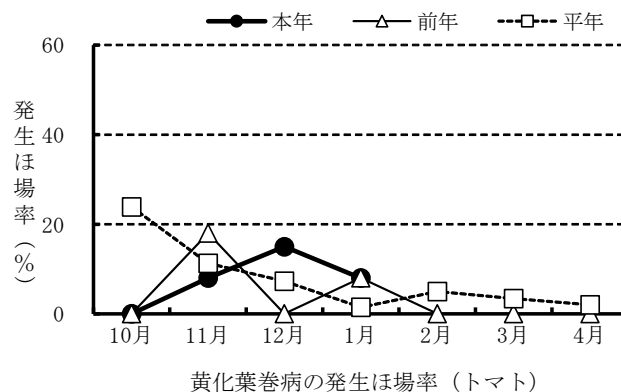
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率8%（平年2%）：高い(+)  
発生程度は低い(-)

#### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 発病株は伝染源になるので、疑わしい株も含め見つけしだい除去し、施設から持ち出して処分する。
- (イ) 黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）はタバココナジラミが媒介するので、黄色粘着トラップを設置し早期発見，初期防除に努める。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



## 3. ピーマン

### (1) 斑点病

#### ア 予報内容

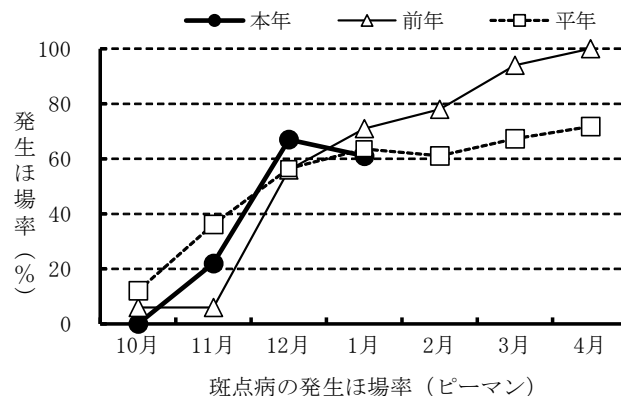
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率61%（平年63%）：並

#### (イ) 気象予報

- 降水量：平年並みか多い(+)



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病葉はできるだけ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。
- (ウ) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

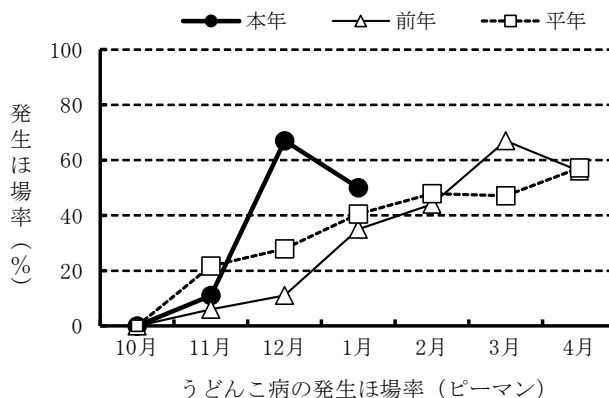
(2) うどんこ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率50%（平年40%）  
：やや高い（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

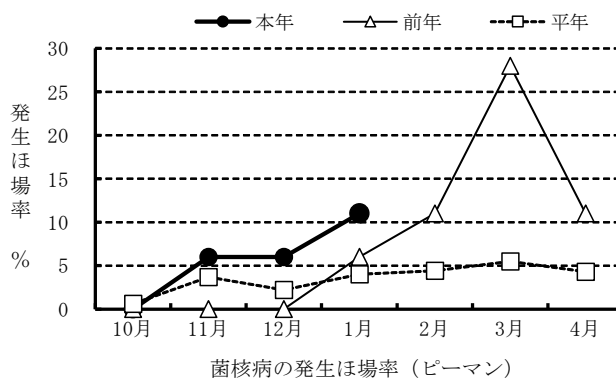
(3) 菌核病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率11%（平年4%）：高い（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病に注意し、予防散布に努める。
- (ウ) 病原菌は活力の衰えた花びらや枯葉、整枝後の傷口、枝分岐部付近から感染しやすいので、対象部位へ薬剤が十分かかるように散布する。
- (エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちに施設から持ち出して処分する。
- (オ) 植物体が過繁茂にならないよう、適正な肥培管理に努める。

(4) アザミウマ類

ア 予報内容

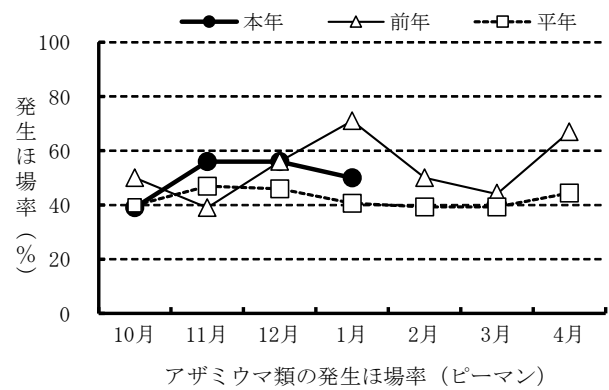
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率50%（平年40%）：並  
発生程度の高いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。
- (ウ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。  
また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



4. イチゴ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

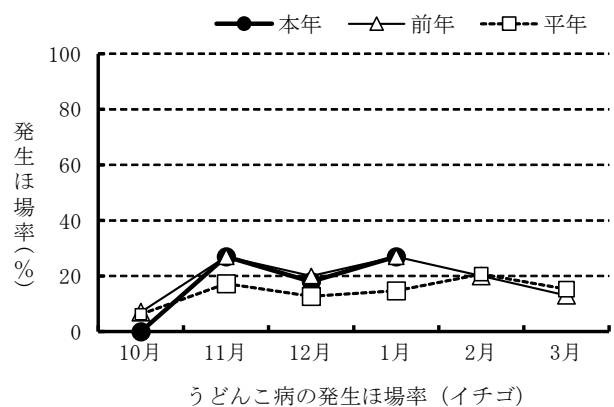
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率27%（平年15%）  
：やや高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



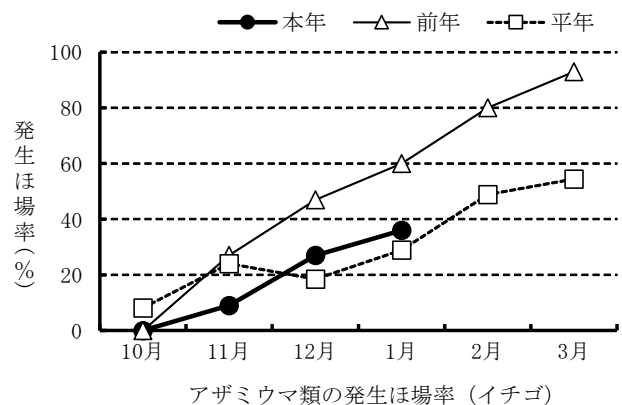
(2) アザミウマ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率36%（平年29%）：並  
発生程度の高いほ場を認めた（+）





ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部等に粘着トラップを設置し，早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので，薬剤散布は丁寧に行う。
- (ウ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では，天敵に影響の少ない薬剤を選択する。  
また，多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。

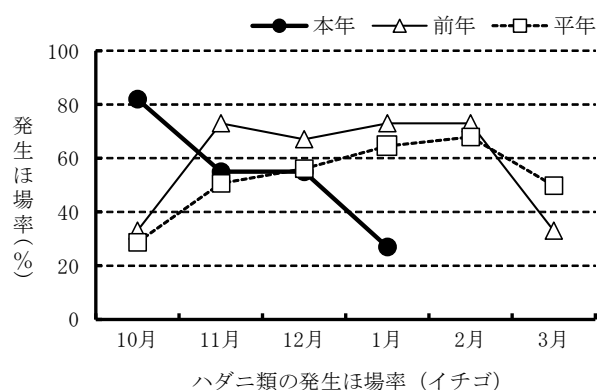
(3) ハダニ類（令和5年度技術情報第14号（11月8日付け）参照）

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：少  
発生ほ場率27%（平成65%）：低い（－）
- (イ) 気象予報  
気温：高い（＋）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では，天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
- (イ) 薬剤の防除効果を高めるため，下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布に努める。
- (エ) 薬剤によっては，感受性が低下しているため，散布後は防除効果を確認する。
- (オ) 薬剤によっては，ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。

5. エンドウ類

(1) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率50% (平年23%)

：高い (+)

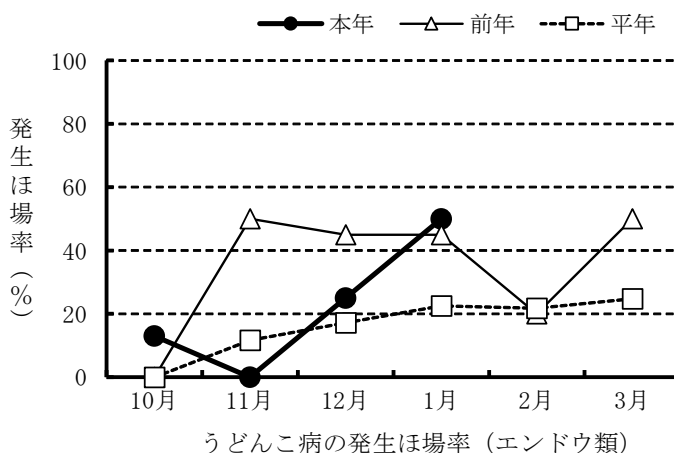
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) かん水不足や着莢負担等による草勢低下で発生しやすいため、適正な管理に努める。

(イ) 多発するとごま症の発生につながるため、初期防除に努め、下位葉の葉裏まで薬剤が十分かかるように散布する。

(ウ) 既に発生しているほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) とのローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率69% (平年65%)：並

発生程度の高いほ場を認めた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

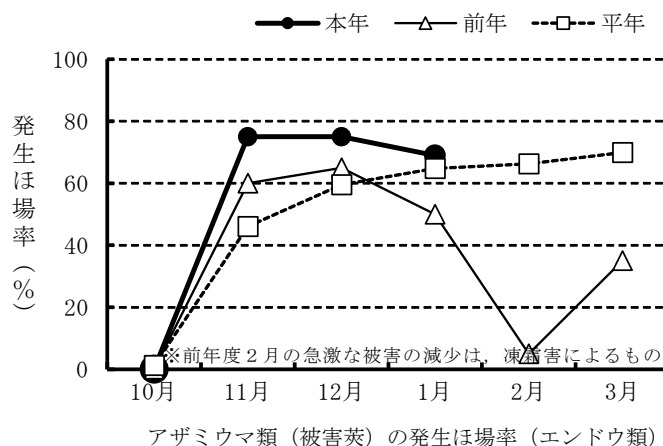
(ア) アザミウマ類は花の子房部分に産卵し、

「白ぶくれ莢」となるので、若莢の

被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、初期防除に努める。

(イ) 薬剤のかかりにくい花卉の奥に寄生するので、丁寧な薬剤散布に努める。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。



6. キャベツ

(1) 菌核病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 6% (平年23%)

：やや低い (-)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

降水量：平年並みか多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

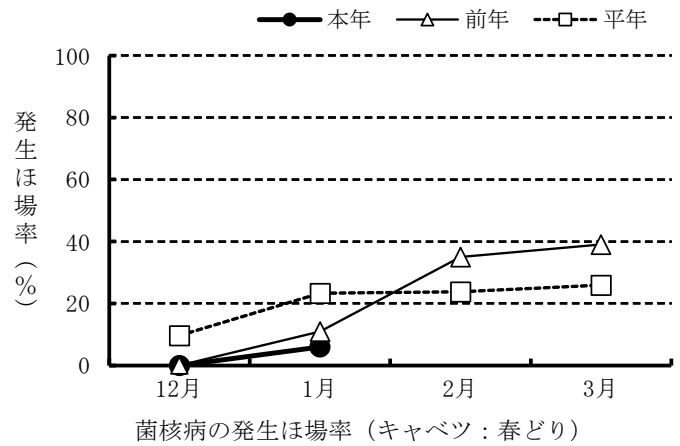
(ア) 多湿条件で発生しやすい。湿度や土壌水分に注意しながら、予防散布に努める。

(イ) 病原菌は地際部から感染しやすいので、薬剤は株元へ十分かかるように散布する。

(ウ) ほ場の見回りを行い、早期発見に努める。

(エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となる。発生が認められたら菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。

(オ) 収穫終了後の残渣は適正に処分する。特に発病残渣をほ場に残さない。



7. バレイシヨ

(令和5年度技術情報第17号(12月26日付け)参照)



(1) 疫病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 熊毛地域, 奄美地域

(イ) 発生量 熊毛地域: 多  
奄美地域: 多

イ 予報の根拠

<熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量: やや多  
発生ほ場率50% (平年25%)  
: やや高い (+)

(イ) 気象予報

気温: 高い (+)

降水量: 平年並みか多い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量: 多  
発生ほ場率75% (平年34%)  
: 高い (+)

(イ) 気象予報

気温: 高い (+)

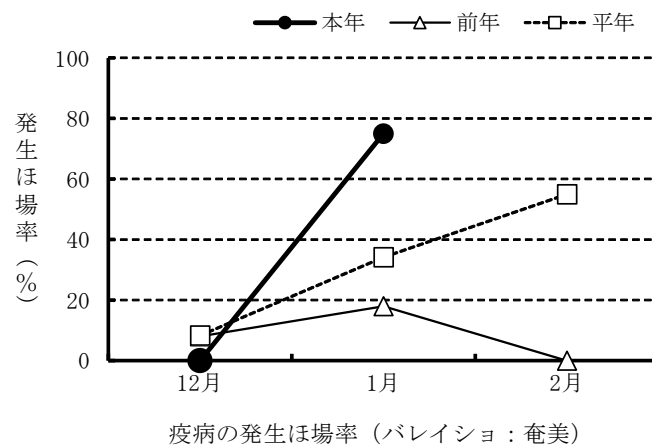
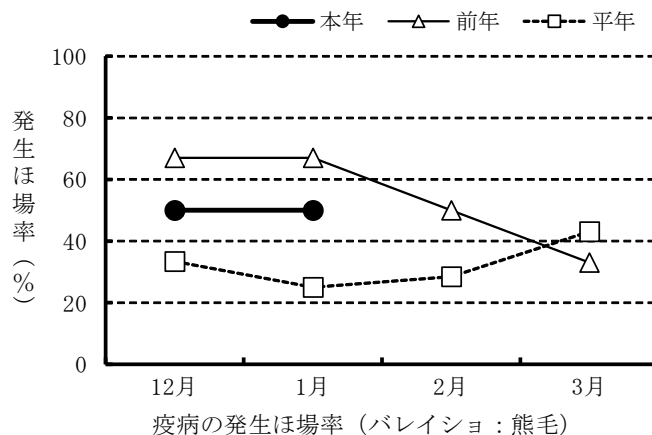
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) ほ場の見回りを行い, 発生が認められたら直ちに治療効果のある薬剤の散布を行う。その後は, 進展状況に応じて7~10日後に追加散布を行う。

(イ) 同一系統薬剤の連用を避け, 作用性の異なる薬剤 (RACコード参照) のローテーション散布を行う (令和5年度技術情報第17号 (令和5年12月26日付) を参照)。

(ウ) 収穫が遅れると被害拡大につながるため, 適期収穫を行う。

(エ) 発病株は次年度の伝染源となるため, ほ場外に持ち出し適正に処分する。



(2) 菌核病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 熊毛地域, 奄美地域

(イ) 発生量 熊毛地域：多  
奄美地域：並

イ 予報の根拠

<熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率50% (平年7%)  
：高い(+)

(イ) 気象予報

気温：高い(+)  
降水量：平年並みか高い(+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：やや少  
発生ほ場率0% (平年14%)  
：やや低い(-)

(イ) 気象予報

気温：高い(+)

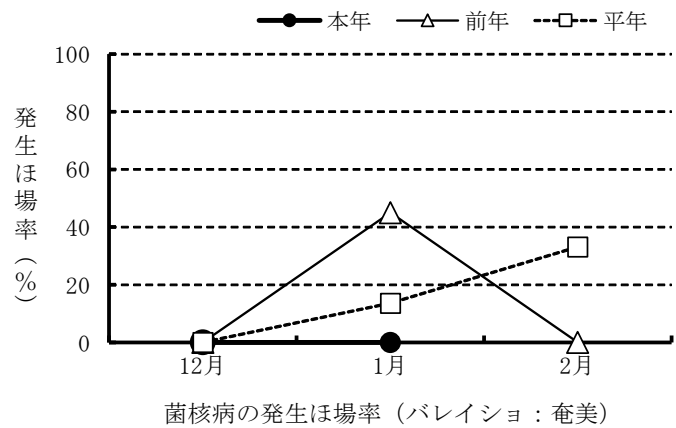
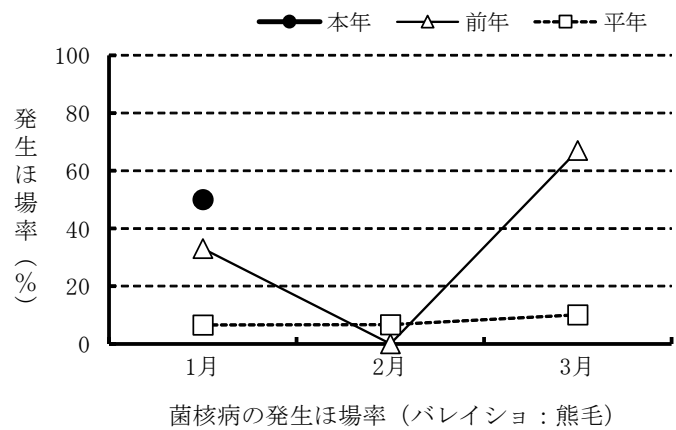
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多湿条件で発生しやすいので、天候や排水状況に注意する。

(イ) 定期的にはほ場の見回りを行い、発病を確認し次第、初期防除を行うようにする。

(ウ) 病原菌は地際部や枝分岐部付近から感染しやすいので、薬剤は対象部位へ十分かかる様に散布する。

(エ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにはほ場外へ持ち出し処分する。



### Ⅲ. 花き

#### 1. キク

##### (1) ハダニ類

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや少

###### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率20%（平年29%）

：やや低い（－）

###### ウ 防除上注意すべき事項

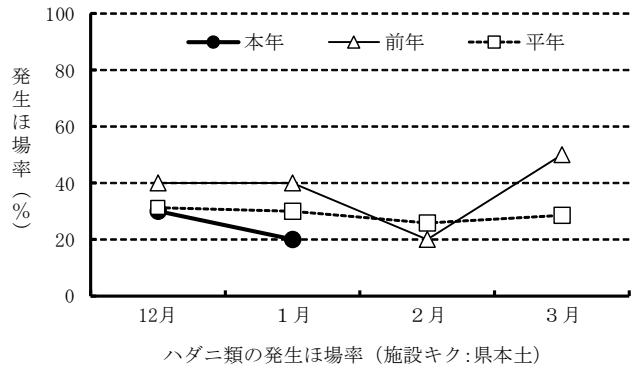
(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する機会が多いので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬剤は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(オ) 収穫後の残さは早めに除去し、適正に処分する。



##### (2) アザミウマ類

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土（施設） やや少

奄美地域（露地） やや少

###### イ 予報の根拠

< 県本土（施設） >

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率20%（平年30%）

：やや低い（－）

< 奄美地域（露地） >

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率20%（平年38%）

：やや低い（－）

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類はキクえそ病

（TSWV）、キク茎えそ病（CSNV）

を媒介するので、ほ場への侵入防止と

早期発見および早期防除に努める。

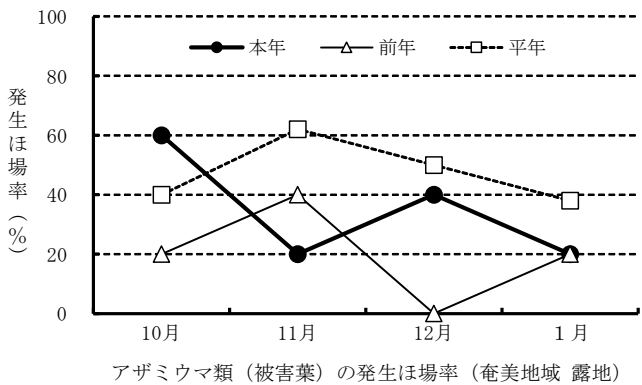
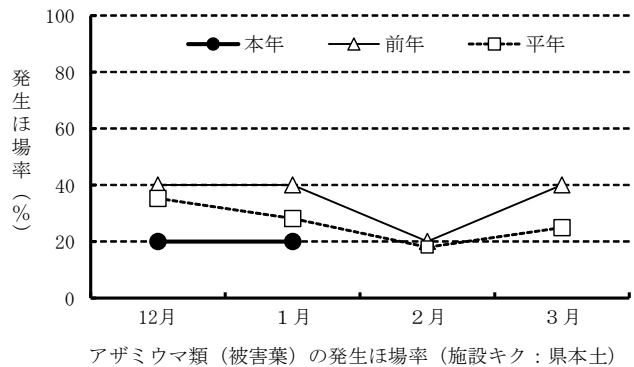
(イ) 発生動向を把握するためには、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。なお、クロゲハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) クロゲハナアザミウマは中下位葉にも寄生しているため、薬剤は下葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(オ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(カ) 収穫後の残さは早めに除去し、適正に処分する。



## 農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。  
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋など）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地および畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

### 「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（＋）、（－）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平年を用いている。